

ゾウの飼育方法 【Methods of keeping elephants】

http://www.upali.ch/keeping_en.html#freecontact

どうやって、ゾウは飼育されているか？

今日では、動物園におけるゾウの飼育方法は、3つの方法が利用されている。「直接飼育 (Free Contact)」「間接飼育あるいは防護飼育 (Protected Contact)」「ざっくばらんな管理 (Offhand Management)」。

しかしながら、サーカスでは、ゾウは舞台上で見せられている。サーカスのゾウの動きは、ただ単に、伝統的な直接飼育を使って可能なだけである。

直接飼育 (Free Contact) とは何か？

直接飼育は、ゾウを取り扱うための普通の方法である。ゾウと直接関係を持つ利点は、簡素 (シンプル) であることと、ゾウたちの十分な治療にある。足の治療、大小の負傷は、飼育係や獣医師によって直接的に治療が可能である。

このハンブルグ動物園の写真は、現在では、過去の遺物であるべきである。たとえ、もし、この写真を全員が、のどかであると見ても、この写真のようにオスゾウを直接相手にすることは、今では正しいことではありえない。

危険なマスト (Accident・Bulls and bulls managements・Musth の章を参照) になるオスゾウとは反対に、メスゾウの大部分は、自分たちの飼育係とより親睦的で計算可能である。

これ (直接飼育) は、メスゾウのために多くの利点をもたらす。動物園とサーカスでは、直接飼育ではないメスゾウの近代的な飼育方法は、ほとんど想像もつかない (とんでもない)。直接飼育は、ゾウの飼育係に、素晴らしい (良い) 訓練を要求する。

そういうわけで、ゾウの飼育係は、母ゾウの分娩時に、母ゾウを元気づけたり、落ち着かせたりできる。同様に、ストレスのかかった母ゾウから、赤ちゃんゾウを守ることもできる。メスゾウに対する直接飼育では、飼育係は放飼場に入ることができ、ゾウたちの間に社交上の緊張が起こった際に介入 (仲裁) できる。

ゾウに対する直接飼育は、ゾウと飼育係との間に、お互いの大きな信頼を必要とする。もし、この信頼が、どういうわけか不安定になった場合に、深刻な事故が起こりえる。ゾ



ウの飼育方法は変わってきている。そして、こういった事故の危険を最小限にするために、間接飼育あるいは防護飼育（Protected Contact）が、数園に導入された（特に、米国で）。

間接飼育あるいは防護飼育（Protected Contact）とは、何のことか？

ゾウの飼育係が、保護された状態でゾウと付き合うことである（堅固なバリアを介して仕事をする）。

この飼育方法は、オスゾウをより安全に飼育し、事故の危険性を最小限にするために考えられて作られた。

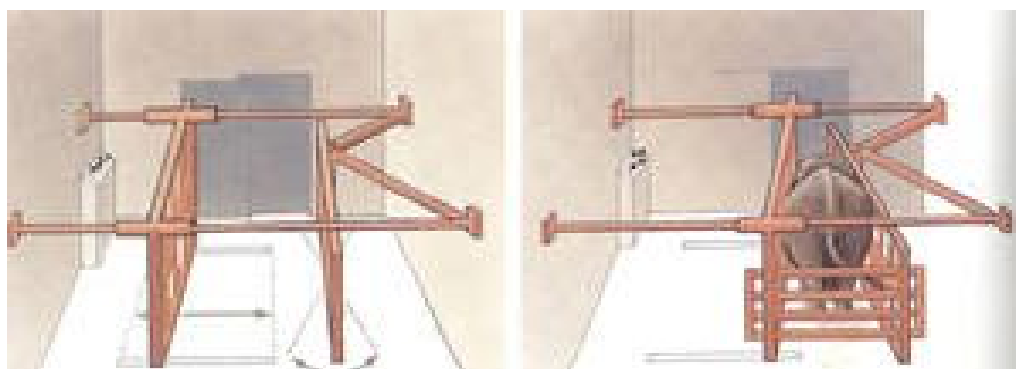
外傷治療と足のケアのために、ゾウは足や負傷部位を獣舎の外側に維持しなければならない（防護壁や防護棒の間から足を出したり、負傷部位をそこに押しつけなければならない）。



もし、オスゾウが非常によく訓練されていれば、飼育係は、直接飼育の際と同じように強力な（積極的な）治療ができるだろう。しかし、もし、飼育係に対するゾウの信頼度があまり高くなかったり、もし、ゾウが不安がるようであれば、ゾウは、自分の足や負傷部位を飼育係に見せようとしなないだろう。そして、飼育係に治療させないだろう。

圧縮ケージ（Crush Cage）、スクイズケージ（Squeeze Cage）、ERD（Elephant restraint device：ゾウの拘束装置）とは何か？

財力のある動物園は、圧縮ケージを作った（略図は米国のポートランド動物園から頂いた）。圧縮ケージは、ゾウが、毎日、通る場所（例えば、放飼場への道筋）に設置される。



この圧縮ケージの中でゾウを治療する場合、ケージは閉められ、図のように可能な限りゾウを圧縮し動きを抑制する。このようにゾウが固定されれば、獣医師が採血したり、飼育係が足のケアをしたりできる。

その他の点では、同じようにして、麻酔が必要な手術を実施できる。ゾウの麻酔は、いつ麻酔が効くか？どの程度強力に効くか？が決して正確に解らないので、麻酔は、ゾウにとっていつも非常に危険である。

圧縮ケージは素晴らしく、そして、事故の危険を冒すことなくゾウを治療することに役立つ。しかし、この強制的ケージを懲罰のために使うことは、完全に間違っている。

ケージ内で固定されたゾウを、手鉤や鉄棒で叩くことは可能だが、乱暴に扱われたゾウは、再び、この圧縮ケージの中に再び入ることを拒否するだろう。

ざっくばらんな管理（Offhand Management）とは、何のことか？

ざっくばらんな管理とは、ゾウと全く接触しないことである。これは、ゾウが訓練されておらず、飼育係がゾウをほとんど直接動かすことがないことを意味する。この飼育方法は、もしかしたら、大きなサファリパークや保護区で用いられるかもしれない。例としては、Cabarenco（スペイン）の Parque de la Naturaleza である。

この飼育方法は、狭い敷地の動物園では、ほとんど実用的ではない。普通の場合の獣舎と放飼場は、ゾウの群れを飼育するには、非常に狭い。

ゾウたちが、社会的に仲たがいを起こした場合には、ゾウとゾウとの距離を離すことができるように、ゾウ舎全体の構造は、十分に大きくなければならない。

